小学生の見学会「顛末記」

新津農業振興部農村計画・施設管理担当

1 はじめに

新潟地域振興局新津農業振興部で管理している大秋排水機場、覚路津排水機場の施設見学来場者は平成19年度では、延べ306人と多数の来場者がありこの内、秋葉区内の小学校の総合学習として新津第三小学校から119人、金津小学校から59人の児童を受け入れ、新津郷の排水の仕組みと施設の役割について見学会を行いました。

ここでは平成19年10月25日に新津第三小学校が見学に来た時の状況を紹介します。

2 排水機場の概要

両排水機場の排水区域である、新津郷は蒲原平野の中央部にあって、東に能代川・新津丘陵、西に信濃川、南に五社川、北に小阿賀野川に囲まれた半輪中で平坦な地形となっています。昭和41年と42年の集中豪雨により新津郷では田畑や住宅に甚大な被害を受けたことから、この水害を契機に新津郷の用排水を抜本的に改良するため、両排水機場が建設されました。

大秋排水機場のポンプの大きさは、直径が２m10㎝、長さが12mの横軸円筒形軸流ポンプが７台あります。ポンプ１台の能力は、毎秒10トンの排水能力があり、最大70トン排水することができます。

覚路津排水機場のポンプは横軸円筒形軸流ポンプが４台あり、ポンプ１台の能力は毎秒12トンで、最大48トン排水することができます。

3 学校との事前準備

見学の一ヶ月前に先生から事前見学があり、以下の要望がありました。

・「信濃川、東大通川の排水の様子や仕組みを知る。排水機場の役割を知る。」という目的があり、これに沿った見学内容でお願いしたい。
・大秋排水機場、覚路津排水機場の両機場の見学を実施したい。（特に小学校の前を流れている排水路の水が覚路津排水機場から排水され、信濃川に流れる様子が見たい。）
・信濃川・東大通川の水位と、排水路水位との高低差のちがいを見たい。

これを受けて、当日は見学時間の制約もあり事前に排水機場のパンフレット、新津郷の歴史と機場完成までのＤＶＤを差し上げ、見学ルートの下見を実施しました。この時、危険箇所と思われる場所を見学ルートから除外したり、雨天時の対応等の打合わせ実施しました。

4 見学前日

機場内には、県の職員が１名常駐していますが､100人規模の見学者の対応は１人ではとても不可能のため、地域振興局職員の応援を受け、５人体制で行うこととしました。

見学ルート、危険箇所の人員配置、説明内容、カメラ担当、移動及び説明の時間、などの確認を行いました。

5 見学状況

見学当日は晴天にも恵まれ、観光バス２台に４年生の二クラスと４名の先生が来場されました。始めに管理棟２階のホールにて新津郷内の地理的特長及び歴史、排水のしくみについて、説明を行いました。生徒から１年間の電気代はどれくらいかかりますか？　１年間の排水量はどれくらいですか？　え～と……、数字がすぐ出てこないので後ほど先生にお伝えしておきます等、説明者もすぐには答えられない様な質問もあり、日頃の勉強不足を感じました。

その後、操作室→ポンプ模型などの展示物→ポンプ室→除塵機の順に説明して行きました。

ポンプ室では１フロアに７台の排水ポンプが整然と配置されているところを見た瞬間は、「わ～すごい。おっき～な～あ。」などの歓声があがり、説明者も「よしよし予定どおりのリアクションだな。うふふ。」など、うれしくなりました。

また、除塵機の説明の時は、２～３日前からこの日のために溜めて置いたごみを除塵機を動かして実際に引き上げる実演し、電化製品や生活ゴミが川から上がるところを見せて、川にごみを捨てないようにお願いをしました。

その後、覚路津排水機場に移動し、ポンプ室→ごみ集積場→除塵機と順に見て回り見学会を終了しました。

6 今後の見学方法の課題

・小学生の二時間休憩無しでの見学はきつく、中間に10分程度の休憩時間を入れる必要があった。
・総合学習の一環としての見学会なので、各説明場所での質問時間とメモをとる時間を設けたほうがよかった。
・事前に足の不自由な生徒、車椅子の生徒がいるか確認し、必要であれば段差の少ないルート設定が必要（今回、車椅子の生徒がいた）
・見学会の後半は、生徒の緊張が続かず、私語や遊び始める生徒もおり怪我や危険区域への立入等の注意が案内する側はもちろん、先生方にも最後まで気が抜けない状況であった。

以上、小学生などの子供の見学方法は、多少の工夫が必要であることをあらためて感じた。

7 生徒から感想の手紙より

・私はポンプがあんなに大きいとは思いませんでした。ごみもあんなにたくさん流れてくるとは思いませんでした。
・ポンプの中のこうぞうをくわしく説明してもらったので、よくわかりました。
・川にごみや電化製品を流したら排水機場のみなさんが苦労するので、これからは川にごみを流さないようにします。
・１台のポンプで１秒間に10トンも流すことができるなんてとてもびっくりしました。

・川の流れ方がよくわかりました。土地の低さや川の堤防が一番高いなんてとてもびっくりしました。
・ポンプの音（運転中のポンプが動く音）が、思ったより大きくて、耳がぶっとぶかと思いました。他にも「へぇ～」とか「そうなんだ」と思うことがたくさんありました。

8 先生からの手紙より

10月25日の見学に際しましては、お忙しい中、丁寧に対応していただき誠にありがとうございました。

子供たちは大きな排水ポンプにびっくりしたり、川から除塵機ですくいあげられるごみの多さに驚いたりしていました。また、ポンプや排水について子供たちに分かりやすくせつめいしていただき排水機場の役割についても理解することができたようです。今ある素晴らしい田んぼも昔の人たちの努力の結果であることを今回の見学や学習を通して理解させたいと思っています。

9 ま と め

一般見学者から「最近の異常気象による集中豪雨に対応できるのか」「新潟大停電のときは大丈夫だったのか」など、最近の新潟県における災害からの質問が多々あり、見学会を通して施設の重要性を改めて感じ、また、この両排水機場がなかった頃の町や土地の状況はどうだったのか、施設完成後どの様に変わって行ったのかを見学を契機に小学生や一般の人にも分かりやすく、丁寧に説明できればと思っています。

今後とも見学者を積極的に受け入れＰＲをしていきたいと思います。

山古志池谷地区からの贈り物

長岡地域振興局農林振興部農村計画課

1 はじめに

とある機会に恵まれて、旧山古志村池谷地区の方々とお付き合いをすることになりました。そうあの『棚サポ』です。私自身、棚サポには今まで参加したことがなく、まして企画まで行うとは思っておりませんでした。

池谷地区では地震前34世帯100人の住民が、今では12世帯29人と７割も少なくなってしまいました。山から平場へみんな降りてしまったようです。

そんな池谷地区の区長さんに『棚サポ』の話を持ちかけた時、「村のもん、みんな喜ぶよ。元気な俺たちの姿を見てください」と二つ返事で了解をもらい、また、区長さんは何とも

青木区長さん